



裁判長
認印

事件の表示 平成四年(ワ)第三四九号、平成五年(ワ)第三七三号、平成六年(ワ)第五一号

本人調書

(この調書は、第一六回口頭弁論調書と一体となるものである。)

期	日	平成八年一〇月三日午後一時三〇分
氏	名	李
年	齢	一九三二年四月二日生
職	業	無職
住	所	大韓民国釜山直轄市東萊区

裁判長は、宣誓の趣旨を告げ、本人がうそを言った場合の制裁を注意し、別紙宣誓書を読み上げさせてその誓いをさせた。

陳 述 の 要 領

原告ら代理人李の質問に対し

甲第一六号証を示す

1 私が通訳人金文淑に韓国語で読み聞かされたこの陳述書の内容は、私が話したとおりの内容でした。

2 私の生年月日は一九三二年四月二日ですから、私が勤労挺身隊として日本に行ったのは一三歳、国民学校六年生の時のことです。当時の私の日本名は岩本えい子で、家族は、両親、兄、姉、三人の弟と私との八人家族でした。

3 勤労挺身隊に動員された切っ掛けは何でしたか。

国民学校のカイノという校長先生と担任の岡先生、勤労挺身隊として日本の飛行機の翼を作る工場に行けば、給料を沢山やるし、勉強もさせてやる、これからは、韓国の女はみんな行くことになるのだから、どうせ行くのなら、一番に行った方が良い、との説明です。

4 校長先生と担任の先生は、日本で何年働くことになる、と言いましたか。

二年が満期だと言いました。

5 あなたは、校長先生と担任の先生の話を信じて日本に行くことを決めたのですか。

当時は帝国時代で、先生の言葉は神の言葉と信じ切っていましたから、先生の話を何一つ疑わず、そのまま信じて日本に行くことにしました。

6 あなたは、日本に行くことを両親に相談しましたか。

初めに両親に言えば絶対反対されると思い、行くことが決まってから両親に話しました。

7 韓国から日本へは、どうやって行きましたか。

連絡船で行きました。

8 誰が、あなたを、あなたが住んでいた所から引率しましたか。

出発する船場までは、担任の先生でしたが、古いことなので、日本に来てからは、誰が引率したか覚えていません。

9 あなたが連絡船に乗る時、あなたと同じような人が他にもいましたか。

私と同じ位の年齢の女の人や、年上の女の人が沢山集まっていました。

10 連絡船は日本のどこに着きましたか。

下関です。

11 下関に着いてからどうしましたか。

下関で連絡船を降り、汽車に乗って東京麻糸に着きました。

12 東京麻糸では何をしましたか。

ローラーに巻き付いた繊維を取り外す仕事です。

13 東京麻糸では、一日何時間働きましたか。

一二時間でした。

14 東京麻糸から給料を貰いましたか。

給料は一銭も貰っていません。

15 東京麻糸では、勉強を受けることができましたか。



全然できませんでした。

16 東京麻糸では、どこで寝起きしましたか。

工場の中にあつた寄宿舎で生活していました。

17 寄宿舎の部屋はどのようなものでしたか。

広い部屋で、一二人位は居ました。

18 食事はどうでしたか。

食事は主に薩摩芋で、いつもお腹を空かせて働いていました。

19 韓国の家に居た時、空腹だったことがありましたか。

韓国では、両親が米の商売をしていましたから、食事に困ったことはありませんでした。

20 家族と離れ、恋しくなることがありましたか。

夜になるとお腹が空き、常に家族を思い出して泣いていました。

21 工場や寄宿舎から外出することができましたか。

22

外出はできませんでした。ただ、いつも可愛がってくれていた天野という人が、家に連れていってくれ、茹でた薩摩芋やお茶をくれたことがありました。

天野というのは、同じ工場で働いていた人ですか。

23

はい。同じローラー課に居ました。

東京麻糸で働いていた時、何か恐い体験をしたことがありますか。

24

仕事中、何度も地震があり、それがすごく恐かったです。

その他にも何か恐い体験をしたことがありましたか。

工場の近所で爆弾の音がし、その音に驚いたり、その恐怖でいつも頭痛がして

いました。一晩中、水に浸かって、あるいは、岩場で、隠れたりしたことも度々ありました。大変な目にありました。

25

爆弾というのは、空襲による爆弾ですか。

はい。

26

爆弾は東京麻糸の工場にも落ちたのですか。

工場内にも寄宿舎にも爆弾が落ち、居る所が無くなって疎開することになりました。

27

そういった地震や爆弾は生まれて初めての体験だったのですか。

はい。

28

東京麻糸で辛いときに歌っていた歌がありますか。

はい。

29

今ここで歌ってください。

一つとや、人も知らない静岡の、麻糸会社は籠の鳥。

二つとや、二親別れて来たからは、二年の満期を勤めましょう。

三つとや、皆さん私の事情を見て、哀れな女工さんと見ておくれ。

四つとや、夜は三時半に起こされて。以下は覚えていません。

五つとや、いつも見回り言つとおり、心棒遅れず綿を取れ。

六つとや、向こうに見えるは沼津駅、乗って行きたい我が故郷。

30

七つとや、長い間の散る涙、流しているのも国のため。
八つとや、山中育ちの私でも、会社の芋飯喰い飽きた。
九つとや、ここで私が死んだなら、さぞや二親嘆くでしょう。
十とや、とうとう二年の満期が来、明日はうれしい汽車の窓。
日本から韓国に、何に乗って、また、誰に連れられて、帰りましたか。

船に乗って帰ったと思います。工場の中の誰かに引率してもらいましたが、それが東京麻糸の人だったかどうかは覚えておらず、誰が引率してくれたかはわかりません。空襲にあったときのままの姿で家に帰りました。途中で鼻緒が切れてしまった下駄を左手にぶら下げ、お母さんと言って、家に入っていったことを覚えています。

31

現在は、韓国で誰と暮らしていますか。

夫と大学二年生の息子との、三人で暮らしています。

32

現在、身体に悪いところがありますか。

地震もさることながら、空襲の爆弾が落ちた時の音による恐怖感のため、ずっと頭痛がしています。また、それが元で、全身のあちらこちらに、いつも痛みを感じ、毎日のように病院に通っています。

33 最後に、あなたが、日本で経験したことにつき、日本政府に対して言いたいことを述べてください。

言いたいことは、沢山ありますが、大まかにまとめますと、私達が小さくて本当に何も知らないときに、勉強をさせてやるとか、給料を沢山やるとか言って連れてきて、地震や空襲による爆弾で怯えさせておき、後にほったらかしにしてしまいました。余分なことは申し上げませんが、私達が二年近く働いた給料と、償うものが必要であり、私は、それを要求します。

前川裁判長

34 先程、あなたは日本語で数え歌を歌われましたが、当時は、韓国語を使うことが禁止されていて、日本語しか使えなかったのですか。

韓国語を使うことは全然できませんでした。

35

韓国人同士で話をするときもですか。

私が働いていたローラー課に居た朝鮮人は私一人で、話をする相手はいませんでした。

36

工場が焼けてしまつて移った田舎の工場は、焼けた工場とはどの位離れた場所にあったのですか。

恐かつたのと、車で行つたのとで、どの位の距離だったのか、どの位の時間がかかつたのか記憶にありません。

この質問及び陳述は通事を介して行つた。

裁判所書記官 宮 地 利



[→HOME](#)